

愛知教育大

造形的イメージワーク



手に絵の具を付けて絵を描く学生たち＝愛知県刈谷市の愛知教育大で

子どもの気持ちを追体験

指に青や赤の絵の具を付けた学生が、机の上に広げた紙に渦巻きやしま模様を勢いよく描き始めた。絵の具が飛び、学生は子どもの

「造形的イメージワーク」では、保育士や幼稚園の教諭などを目指す三年生が受けた。

ような笑顔を見せた。愛知県刈谷市の愛知教育大幼児教育講座の林牧子准教授(四)は「保育内容・人間関係」の授業で毎年、学生たちに子どもの気持ちを追体験してもらっている。昨年四～八月にあった授業

「嫌だな」「おっ、意外に良い色だ」と率直な感想が出やすい。互いに作品を評価するとき、ほめられて複雑な気持ちになることも。参加した女子学生の一人は幼稚園の実習で「うまいね」と絵をほめたら、「こんなうまいくない」と怒った園児の姿を思い出した。「真剣にその子の気持ちに向き合って声をかけないと、寄り添ったことにならないんだ」と話した。

林准教授は「この方法なら、作品の出来栄に気を取られ過ぎず、子どもの気持ちを実感しやすいのでは」と話している。



アカデミックカフェ 「増え続ける子どもの虐待、私たちにできることは一発見、対応から支援、予防まで」と題したカフェが26日午後5時15分から、愛知県刈谷市井ヶ谷町の愛知教育大教育未来館で開かれる。愛教大の万屋育子特任教授が講師を務め、児童相談所の役割などを語る。参加無料で、事

前申し込みも不要。愛教大研究連携課 外部資金担当＝電0566(26)2119